

群馬県町村議会議長会広報研修会 場所：群馬県市町村会館
「心を変化させる広報誌づくり」

一般社団法人日本経営協会 中本 正樹氏

読む人の心を変えるレイアウト作成や写真撮影のコツなど、住民が見るかどうかを判断する重要なポイントを学び、以下にまとめました。

- ①目を引く表紙デザイン／トップ記事のインパクト
- ②住民の声を編集に反映する工夫
- ③工夫を凝らした特集記事
- ④具体的で的確な見出し
- ⑤フォント、色使い、視覚的効果のバランス
- ⑥見開きページの活用法

適宜、設けられた話し合いの時間を通じて、私たちが作成する広報誌に即した確認を行うことができ、大変有意義なものとなりました。
(波多野佐和子)

オンラインの素顔

12人に聞いてみた！

休日の過ごし方

新井 佐智子 	一倉靖子 	柳岡利精 	宮崎法文
夫と息子がサッカー観戦が好きで、県外の遠征に合わせて時々家族で旅行に出かけます。ご当地の名物を味わうのも楽しみです。	いつもよりゆっくりめに起きて、朝から夫と一緒に朝ラーメンを食べに行きます。それが唯一の楽しみです。	愛犬と散歩しながら季節の移ろいを感じ、ご近所さんと自家米や野菜づくりの話で盛り上がる。草刈りで汗を流す、そんな休日です。	昭和歌謡が大好きでよく聞いています。古賀メロディー・青春歌謡〈温故知新〉楽曲で時代時代の思いが甦ります。
浅見 隆 	須田仁美 	三俣 実 	波多野 佐和子
苦節45年。今はプロ級の腕前？休日に暇があれば、剪定バサミを持ち出して庭木を整えています。伸びていると、気になってしまふのが性分です。	未来には幸せな日常として笑って思い出すでしょう。今は休日も全力で子育て中。最近の息抜きは、子どもたちが寝静まった後に水槽の熱帯魚を眺めること…。	草刈りを始めて10年。技術や知識が自然と身につき、無心で作業することがストレス解消になり、自分と向き合う大切な時間となっています。	好きな音楽を聴きながら、季節の野菜で常備菜作りします。また、手入れ後の花を見ながらのコーヒータイムは至福のひと時です。
中島 由美子 	生方勇二 	善養寺孝 	清水健一
村には水稻を中心に地域ごとの特産野菜があります。四季折々農家さんの話を聞き、ご自慢の野菜の顔を見ると疲れが飛びます。	長寿会等の地域活動参加や趣味の愛好会参加、忘れた頃にするゴルフ、そして、家族の買い物等の手伝い。	妻や孫と一緒に、県内外の遊べて楽しめる施設へ出かけています。また、田畠の草刈り、趣味のゴルフへ行っています。	休みの日は、本を読んでいます。特に歴史小説が好きで良く読みます。

「学んで生かす!! 研修レポート」

広報委員会委員研修編

8/28 全国町村議会議長会広報研修会 場所：LINE CUBE SHIBUYA (渋谷公会堂)
「インタビュー記事を足して 読まれる広報紙にしよう」

インタビュライター 丘村奈央子氏

議会広報にインタビュー記事を取り入れていくことで、地の文だけよりも躍動感が出て、記事の魅力を高められることを学びました。制作手順は以下のとおりです。

- ①インタビュー記事にしたい題材を選ぶ
- ②取材目的を明確にする
- ③良いレイアウトと文字数を確認する
- ④目的に合致した質問を準備する
- ⑤当日取材する
- ⑥書く

人が関わっている題材を選び、事前に質問を準備してからインタビューに臨み、良かった回答から採用して記事にしていく、というインタビュー記事制作の要點をわかりやすく説明していました。
(新井佐智子)

「スマートフォンを活用した撮影技術・動画作成の基本」

映像講師・映像クリエイター・(公社)日本広報協会 広報アドバイザー 渡川 修一氏

人物の撮影に際し、背景にあるその人らしさや雰囲気をとらえることができるか、以下のルールに従って学びました。

ルール

- ①顔が明るく撮れる場所で撮る
- ②人の撮り方の構図を理解する
- ③相手との距離と高さを考える
- ④背後にスペースを設ける
- ⑤目線の高さを保つつづ、会話ができる状態を作る

以上、みなさんも実行してみてください。
(浅見 隆)

「議会活性化と連動した広報紙づくり～住民の政治参加を促すツールに～」

福岡県大刀洗町議会 議会広報委員会委員長 平山 賢治氏

議会活性化に20年。広報の充実は議会活性化の一部門であるということを学びました。

- ①委員会・全員協議会など会議の完全公開
- ②定期会ごとの議会モニターとの意見交換
- ③毎月定期会・全員協議会、全議案について自由討議
- ④正しく要約し、数字は表やグラフに
- ⑤写真や資料でバランス、本文は余ったスペースに
- ⑥表紙と連動企画や比較などの動きある情報を

目から鱗の内容でした。議会活性化の取り組みが広報の工夫と一体となっていて、私がやりたいことがぎゅっと凝縮された議会だと感じました。議会報告を一方通行で終わらせず、村民のみなさんと双方向に交流できる議会をこれから目指していきたいと思います。
(須田 仁美)


